

大銀杏

第40号 (HP版)
令和3 (2021)年
8月30日
藤嶺学園藤沢
中学校・高等学校
新聞部
(高校)
中田大翔 井上晃喜
村元颯泰 榎山翔太
片桐伊織 高橋 新
三田航太郎 荒嶋航成
井上晴道 水野 真

第103回全国高校野球選手権神奈川大会が7月に行われた。藤嶺藤沢は2回戦、柏木学園との初戦に勝利し、3回戦では第3シードの横浜隼人に見事逆転勝利を収めた。4回戦の湘南工大付属高校戦では1失点に抑え5対1で勝利しベスト16に進出した。5回戦の東海大付属相模高校戦では安打は上回り、攻守に勝利を目指す選手の姿が見られたが一步及ばず惜敗した。一戦必勝で甲子園を目指す選手の姿は、どの戦いも見ている者に感動を与えた。【井上晴】

惜敗 安打上回る

5回戦 東海大学付属相模高校戦

7月22日藤嶺を失う。それで藤沢対東海相模も3回裏から3の試合は0対6番手で登板したで藤嶺藤沢は敗れ、ベスト16でこの夏を終わつた。

藤嶺は先発・藤木が立ち上がりから東海相模打線に捕まり、2回裏途中で二番手原澤にマウンドを譲るも流れを断ち切れず、序盤に5点

戦3 投手好投 失点1に抑える

20日に行われる西井、祝が適した藤嶺藤沢対時打を放ち、2湘工大付の第4回戦は5対1で藤嶺藤沢が勝利した。加えて9盤石の試合運びだった。藤嶺は城島、千島、重松の3投手が3イニングずつ投げ、湘工大付打線を1失点に抑える。一方の打線も4回まで無得点に抑えられ、5回に北井のスクイズなどで2点を先制。続く6回に相模打線の安打を1本のみの1失点に抑える好投。さらに8回裏から登板した4番手・重松も1イニングを無失点に抑える投球を披露した。【井上晃】

初戦を快勝!

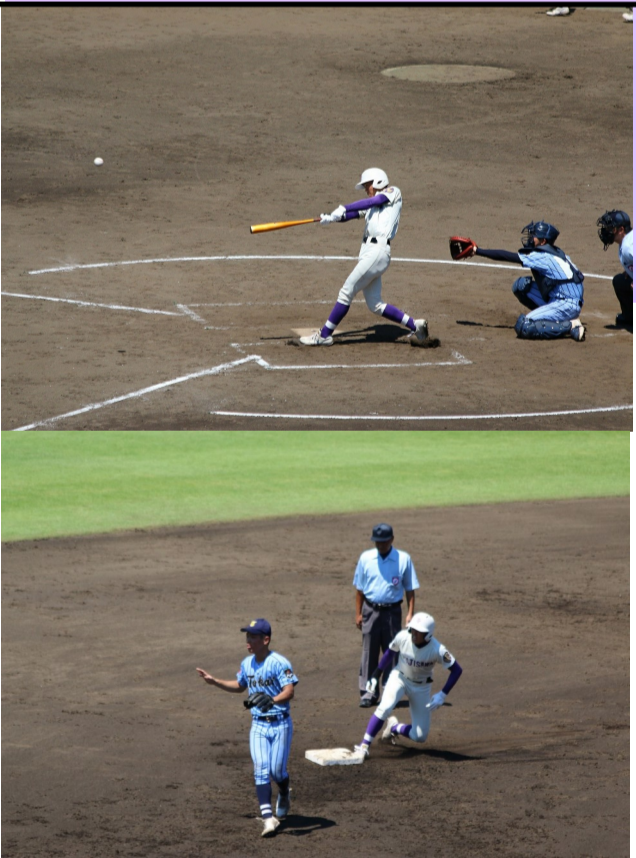
神奈川新聞を早くも「攻撃の幅見せ快勝」と記事が「藤嶺藤沢は右腕城島が多様な変化球を絞らせ、7回を無失点。打線は5本の長打攻勢にス

戦3 「自分たちの野球を信じた結果」 激闘を制した藤嶺藤沢

17日に行われた藤嶺藤沢対横浜隼人の試合は延長11回にも及ぶ壮絶な死闘の末、13対11で藤嶺藤沢が勝利した。1回表、藤嶺打線は石井の適時三塁打や城島の適時打に3つの犠打を絡めて5点を先制する。しかし2回裏には一挙8点を失い逆転を許すと、5回まで計10点を失う苦しい展開に。それでも何とか追い付きたい藤嶺は6回表に1点を返すとその裏、4番手・重松をマウンドに送る。重松は6回裏こそ1点を失うもののその後は無失点に抑え味方の反撃を待った。すると8回表、藤嶺は藤岡の適時打や祝の適時2塁打

点適時二塁打を放ちついに勝ち越しに成功。最後は10回から再びマウンドに上がった重松が足を振りながら粘りの投球で無失点に抑え試合を終了。勝利した藤嶺は、巧みにバントを仕掛け隼人の守備を揺るがす緻密な攻撃と、ベンチ入りした投手全員を登板させる執念の継投で横浜隼人に春のリーグを果たした。【卒業生矢澤拓郎】※見出しは神奈川新聞7月18日より主将西井君の言葉

クイズーバントを多用、10得点を攻め幅の広さを見せた。祝は5安打4打点との粘投が目を引いた。次戦は横浜隼人戦、一戦必勝、堅い守りに多彩な攻撃に期待したい。【中田村元】



3回表、2塁打を放つ北井選手。



2回裏、藤木投手に声をかける岩本選手。



4回裏、左飛、堅守、尾形選手。



4回裏、1塁への鋭い牽制、千島投手。



2回裏、原澤投手、登板。

編集後記 大銀杏発行のためでしたが、お読みください。毎年新聞部は硬式野球部 写真は古田先生が5回戦 選手に取材をしてきましたが、地で撮影された写真です。今年も、テレビ中継や新聞記事 提供いただきました。古田先生を参考に文章を書き、発行 生有難うございます。 しました。現地へ行けず残念

5回戦 選手の勇姿

【写真 古田先生提供】

8回裏、好投する重松投手。



9回表、安打を放つ石井選手。



5回戦選手の勇姿
【写真 古田先生提供】



5回裏、中飛ライナー好守、石井選手。



試合終了

5回表、安打を放つ岩本選手。



試合後、挨拶する西井一揮主将。



8回表、安打を放つ高橋選手。



8回表、バント決める尾形選手。



試合後、3年生の集合写真。

